令和２年度第１回
幸手市総合教育会議議事録

招　集　期　日	令和２年11月10日（火）午前９時00分
開　会　場　所	幸手市役所第二庁舎　２階　第１会議室Ａ
開 会 の 日 時	令和２年11月10日（火）午前９時00分
閉 会 の 日 時	令和２年11月10日（火）午前10時08分

出席状況	職　名	氏　名	摘 要	職　名	氏　名	摘 要
	市　長	木 村　純 夫	出 席	教 育 委 員	岩﨑　万紀子	出 席
	教　育　長	山　西　実	出 席	教 育 委 員	髙 島　勝 也	出 席
	職務代理者	会 田　研 司	出 席	教 育 委 員	藤 沼　寛 次	出 席
	教 育 委 員	尾島　紗緒里	出 席			

傍聴人：０人　　書 記：大 竹　孝 典・河 口　奈 緒

議事参与者	職　名	氏　名	職　名	氏　名
	教　育　部　長	手 島 秀 明		
	政　策　課　長	安 部 貴 昭		
	総　務　課　長	服 部 道 春		
	指　導　課　長	堀 越 成 夫		
	社会教育課長	百 瀬　修		
	政策課主席主幹	中三川 芳一		

議　　事	顛　　末
開　　会 午前9時00分	教育部長 　開会を宣する。
あいさつ	市長 　あいさつする。
日程第１ **協議調整事項** **及び報告事項** **協議調整事項第１号** **幸手市の教育上の諸課題**	教育部長 　市長から本市の教育行政に対する所感と現状の諸課題を述べていただき、その後、委員の皆様から御意見やお考えを伺いたい。 市長 　近年、「Ｓｏｃｉｅｔｙ（ソサエティー）５．０」という言葉をよく耳にする機会がある。ソサエティー５．０とは、「ＡＩ等の先端技術を高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れることで、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな未来社会」と提唱されているが、昨今の急激な技術革新の中にあっても、希望の持てる未来志向の社会や世代を越えて互いに尊重する社会を構築するとともに、日本の伝統文化を尊重しつつ、グローバルな人材の育成が求められていると考えている。 　今年度はコロナ禍によって「新しい生活様式」も生まれ、私たちを取り巻く社会の変化が加速したが、学校教育の現場においても、オンライン授業の導入や授業時間の確保など、課題に向けての対策は、ますます複雑・多様化してきており、学校や教職員への期待は膨れ上がる一方である。また、公民館やスポーツ・文化施設においても、コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の閉鎖や人数制限、活動の自粛など、社会の閉塞感や孤立化などの問題も山積しているところである。 　このような中、教育委員会では、当面の諸課題やこれからの教育の在り方などについて、豊かな識見のもと、様々な視点からご審議いただき、改めて感謝を申し上げる。 　教育における現状の諸課題だが、まず、学校教育の面では、 ・未来に生きて働く基礎・基本となる確かな学力の育成 ・豊かな心を持ち、たくましく生きる人間的な力や道徳性

	の涵養 ・ＧＩＧＡスクールの実現に向けたＩＣＴ活用能力 などが求められている。 また、制度の面においては、 ・吉田幼稚園の廃止に伴う幼小一貫教育や小中による一貫教育 ・適正規模の学校の再配置 などが課題だと考えている。 社会教育においては、「人生百年時代の健康・スポーツ・文化活動の推進」のもと、 ・ライフステージに応じた豊かな学びの実現 ・少子化に伴う各種団体の育成の在り方 ・老朽化・陳腐化する公民館や社会教育施設への対応 など、解決しなければならない問題が多数あると考えている。 これら教育行政における諸課題の解決に向け、本日は幅広い観点から、委員の皆様の忌憚なきご意見をたまわり、今後の教育行政に反映させていきたい。 ≪**意見交換**≫ 藤沼委員 就学援助を受給している児童・生徒が 679 人いるが、受給している子どもは、表面上は健やかに育っているように見えても、内心では負い目を感じているのではないか。そこから表面化して、いじめや不登校等を誘発していないか懸念している。格差社会がますます広がるなか、情報格差も含めた差別化については、さらに研究していかなければならないと思う。 総務課長 委員がおっしゃるとおり、就学援助については約２割の児童・生徒が受給している状況である。負い目を感じているのではないかとのご心配をいただいた点についてだが、手続きの点から申し上げると例えば学校給食費の補助については学校給食費を納入いただき、後から支援費として振り込んでいることから、どの児童・生徒が受給しているか第三者が分かるような手続きとはなっていない。 指導課長 いじめや不登校等を誘発していないかとのことだが、学

	校では毎月、いじめに係る調査や欠席理由の確認を行っており、御心配いただいている理由でいじめを受けたり、欠席したりしているという報告は受けていない。しかし、内心という目に見えない部分で感じている可能性もあるので、引き続き子どもたちの変化に目を配らせていきたい。 岩﨑委員 10 月の教育委員会定例会で八潮市教育委員会の教育長様をはじめ、職員の方にお越しいただき、小中一貫教育の取組について御教授いただいたが、説明のなかで八潮市でも小学校では保護者の協力が得られて子どもの学力が伸びるが、中学校になると協力が得づらくなり、学力が伸びないとの話があった。 私は、中学校に力を入れるよりも、保護者の協力を得やすい時期にできるだけ教育に力を注ぐ、それこそ赤ちゃんが母体の中にいるときから生きる力や自己肯定感を育む教育に力を注ぐことで、後伸びするのではないかと考えていた。そのためには、教育委員会だけではなく、行政全体で子育てと教育に係わっていくことが重要だと思う。 公立幼稚園の存続を踏まえて市長のお考えを伺いたい。 市長 公約に掲げているとおり、私は吉田幼稚園の廃園により公立幼稚園が無くなってしまうのはいかがなものかと考えている。そこで、吉田幼稚園は無くなっても、異なる形で公としての幼稚園を存続させたいと考えている。 藤沼委員 心をキャンバスに例えると、人は生まれたときは皆、真っ白である。そこから成長過程で様々な色に染まっていくわけだが、私は、私立は私立の、公立は公立の色に染まっていくと考えている。そのため、私立なら私立、公立なら公立と一気通貫で進学した方が、個性を伸ばせるのではないかと思う。個性を伸ばすためにも公立幼稚園の存続は重要だと考えるが、情報共有できる環境をしっかりと整えていかないと、せっかくできた公立の流れが寸断してしまうことになる。情報をデータベース化し、情報共有していくことは、大きなモデルケースになると思う。 教育部長 先程、岩﨑委員から行政全体で子育てと教育に係わって

	いくことが重要とのお話をいただいたが、市では第６次幸手市総合振興計画を策定するにあたり、これまで子育てについては福祉系の区分として、教育については教育の区分と分けて政策を立てていたものを、「子どもがいきいきと育ち、子育てしやすいまち」という一つの政策にまとめ、子育て部門と教育部門の施策を一本化した。 また、「子育て支援課」と、子育てを重視していた部署を「こども支援課」と名称を変更し、教育委員会が所管していた私立幼稚園に対する補助事業を「こども支援課」に一本化した経緯がある。 髙島委員 文部科学省委託研究「平成 29 年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学　代表：浜野 隆 教授）によると、家庭の社会経済的背景が高い児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向にあるとの結果が出ている。 しかし、家庭の社会経済的背景に係わらず、岩﨑委員がおっしゃるとおり保護者の適切な働きかけにより協調性や忍耐力、いわゆる非認知能力が身につくとされている。 幼小中といった一貫した流れの中で非認知能力が育まれるということを保護者に認識していただくとともに、学校でもしっかりと抑えていくことで、子どもたちの学力向上や将来の夢に向かって頑張る力の育成に繋がっていくと思う。 しかし、地域によっては経済格差による差別的な動きもあることから、そういった現実も踏まえながら幼児教育から一貫して子どもたちの生活を支えていくという気概をもって取り組んでいかなければならないと感じている。 教育部長 学校教育に係る現状の諸課題について、御意見はあるか。 会田職務代理者 市長をはじめ、職員の皆様には学校教育に多大なる援助をいただき深く感謝する。特に学校トイレの洋式化により、児童・生徒は快適な学校生活を過ごしているかと思う。 諸課題として挙がっている学力の育成については様々な方策があると思うが、現在、本市で取り組んでいる小中一

	貫教育をさらに進めていくことが、一つの方策ではないかと思っている。 別の課題として、私は教育委員会の定数を増やしていく必要があると思っている。学校ではここ数年で、小学校への外国語活動の導入、ＧＩＧＡスクール構想の開始、コロナ禍におけるオンライン授業の実施など、様々な事業が始まっている。予算的な問題もあるかと思うが、これらの事業に対して専門的に指導、または取り組める職員がいないと課題に対応できないと思う。 それから、「適正規模の学校の再配置」や「学区編成」は、大きな課題だと思う。東中学校区は児童・生徒数が減少傾向にあり、吉田小学校では今年度、複式学級の学年があるほか、東中学校では全ての学年が単学級で、全ての教科の先生が常駐しているわけではなく、週に数回やっているような状況である。一朝一夕で決められることではないので、各小・中学校への入学予定者数を加味しながら早々に様々な人の意見を聴取して判断しなければならないと思う。しかし、単に規模を縮小すれば良いというものではなく、昨年の台風 19 号の時のように学校は防災の拠点にもなるので、この問題は児童・生徒だけの問題ではなく、地域の問題も含めて慎重に意見を伺いながら、市としての方針を早急に示す必要があると思う。 市長 どちらも非常に難しい問題である。現在の幸手市の財政は大変厳しい状況である。そこに新型コロナウイルスの影響でさらに厳しい現実があるが、私は教育にいかに魂を入れていくかということが大事だと思う。 「適正規模の学校の再配置」については、既に検討を始めているところだが、文化や防災の拠点、歴史的背景なども踏まえながら私の今任期中には方向性を定めていきたいと思っている。時期がいつまでとは申し上げられないが、引き続き皆様のご意見を伺いながら熟練熟慮を重ねていきたい。 教育部長 ＧＩＧＡスクール構想と小中一貫教育の話がでたので、教育委員会の取組や進捗について、事務局から説明をお願いする。 総務課長

	ＧＩＧＡスクール構想の進捗状況については毎月の教育委員会定例会でご報告しているところだが、学校のネットワーク環境の構築と児童・生徒一人一台端末の整備は、今年度中に完了する予定である。今後は、これらをどう活用していくか、教育委員会と教員で構成する学校ＩＣＴ検討委員会や幸手桜の学びセミナー等で研究・検討していきたいと考えている。 小中一貫教育については、10 月の教育委員会定例会で八潮市教育委員会にお越しいただき、先進事例を御教授いただいたところである。また、「適正規模の学校再配置」については、本市に似たような環境で先進的な取組を行っている自治体への視察について、教育長と相談しながら調整しているところである。 髙島委員 会田職務代理者のおっしゃるとおり、自治体規模による教育格差が懸念されている。プログラミング教育や外国語活動など教員の負担が増えるなか、小規模自治体は担当指導主事の人数が大規模自治体と比較して非常に少なく、そのような状況下でどう学校を支援していくのかという問題がある。可能かどうかは不明だが、広域で近隣市町が連携することも検討しなければならないかもしれない。 藤沼委員 ＧＩＧＡスクール構想で児童・生徒に一人一台の端末が整備されるが、「仏作って魂入れず」ということにならないよう知恵と工夫を凝らして取り組んでいただきたい。 尾島委員 コロナ禍でオンライン化が進むなどコミュニケーションが希薄化するなかで、心温まる光景に出会ったのでお話する。先日、市内を流れる倉松川の橋のたもとで、老夫婦が手を繋ぎながらハッピーグルメパスポートを片手に鳥を眺めている光景に出会った。 幸手市では、市内の小・中学校に通う世帯にお米を、全世帯にゴミ袋、幸手市ハッピーエール券、ハッピーグルメパスポートの配布と様々な取組をされているが、同僚や友人からは、これらの取組を機に市内のお店の新たな発見やコミュニケーションに繋がったとの声を聞いている。 これらの取組により外に出る機会を与えていただいたと

	ともに、温かい光景に出会えたことに感謝する。 市長 ご承知のとおり、新型コロナウイルスの感染者が北海道では200人超、東京でも連日、前日を超える感染者が発生している状況である。予断を許さない状況ではあるが、先日開催した三役部長会議で、これまで以上にしっかりと感染対策を行いながら、この閉塞感から脱却するためにも来年度は様々な行事やイベントなどを実施していこうという方針を決めたところである。ウィズコロナでもう少し前向きの行政運営を行っていきたい。 藤沼委員 民間企業では対策を講じているが、学校におけるハラスメントについても課題として取り上げて、適切な指導を講じていただきたい。 教育部長 社会教育分野に係る諸課題についてご意見はあるか。 岩﨑委員 人生百年時代と言われるなか、様々な知識や能力をもった高齢者の方々が多数いると思う。こういった方々を生かして地域全体で教育に取り組んでいただきたい。 市長 おっしゃるとおりで、幸手市は文化的にも教育的にも水準が高く、人材も文化関係、教育関係ともに非常に優秀な方がいらっしゃると感じている。ただし、これらの人材を十分生かし切れていない面もある。高齢者の人材を生かすことで社会に貢献する機会を増やし、外に出ることで健康の増進に繋がるなど二重三重の効果もあるので、さらに積極的に取り組んでいきたい。 教育部長 これまでの意見等を踏まえて、教育長から御意見をいただきたい。 教育長 ＩＣＴ教育や外国語活動などの新しい教育内容の定着、幼小中の一貫した教育や適正規模の学校の再配置の問題、そして教育に魂を入れるための教育委員会職員定数の増員拡大、さらに社会教育と学校教育が一体となって市全体の活性化を図る取組の検討など、当面の課題について市長と共有することができたと考えている。

	本会議には政策課も参加しており、この会議で出た様々な課題や問題をどう政策に反映させ実現していくかというのが総合教育会議の大きなねらいでもある。市当局にはひき続き予算措置等をお願いするとともに、教育委員会としても十分に検討し、実現できるものについては速やかに取り組んでまいりたい。 教育部長 最後に市長から本日の総合教育会議の総括をお願いする。 市長 総括ではなく感想となってしまうが、１時間という非常に短い時間の中で貴重な意見を多々承った。教育長、教育委員会と連携しながら教育行政の更なる向上に役立てていきたい。 江戸時代の語学者 本居宣長が、学問にどのように取り組んだら向上するかという問いに対して、「学問は、ただ年月長く倦まずおこたらずして、はげみつとむるぞ肝要にて、学びようは、いきょうにてもよかるべく、さのみかかわるまじきこと也」と言った。私はこの教えを大切にしてきた。今回承った様々な教育課題についても一朝一夕に解決できるものではないので、地道に取り組んでさらなる向上に努めてまいりたい。強い熱意をもって取り組むので、引き続き皆様の知恵と御指導をいただきたい。
日程第２ **その他**	なし
閉　　会 午前 10 時 08 分	教育部長 閉会を宣す。

他特に重要と認める事項	な　し
	上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和２年１２月１５日 教育委員　　会田研司 教育委員　　尾島紗緒里